

平成 28 年 6 月 2 日現在

機関番号：30127

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26884043

研究課題名(和文)ワ族のリテラシーに関する調査研究

研究課題名(英文)A study on literacy of the Wa people

研究代表者

山田 敦士 (Yamada, Atsushi)

日本医療大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：20609094

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：中国雲南省西南部に居住するワ族(モン・クメール系)は、固有の表記文化をもたない民族集団である。しかし、19世紀以降に導入された数種の文字表記により、現在、一部に文字使用の実態が生じている。本研究計画では、こうしたワ族のリテラシー実態の解明に取り組んだ。フィールドワークに基づく研究活動により、ワ族の文字表記の全体像、特に2種類のローマ字転写法およびインド系文字の使用実態、普及活動の状況について、社会言語学的な研究成果が得られた。

研究成果の概要(英文)：The Wa people, a Mon-Khmer speaking people living in south-western Yunnan province of China, is an ethnic group which did not have their own character for a long time. However, some types of characters are transmitted to their society after the 19th centuries. The aim of this study is to reveal their literacy. We conducted some field surveys on the Wa people living in (or originated from) Yunnan province. The result of these surveys, we collected many valuable socio-linguistic data. Based on these data, we contributed some papers and reports about socio-linguistic studies of the Wa people, especially in two kinds of roman transcriptions and an Indian script.

研究分野：言語学

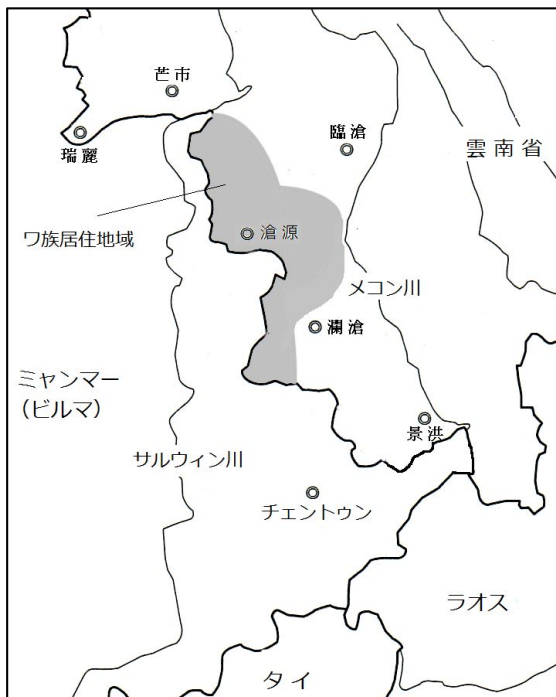
キーワード：ワ族 リテラシー 無文字社会 雲南

1. 研究開始当初の背景

中国雲南省には、異なる言語系統に属する非漢系少数民族（モン・クメール系、チベット・ビルマ系、ミャオ・ヤオ系、タイ系）が居住している。今日、漢族文化の急速な拡大により、多くの民族はその固有の文化・社会の変容を余儀なくされている。

雲南省西部から西南部に居住するモン・クメール系民族（ワ族、プラン族、ドゥアン族）もこの例外ではない。モン・クメール系民族は当地の最古層の住人と推定され、調査研究が急務となっている。こうした状況の下、90年代以降、モン・クメール系民族の言語文化に関する基礎的研究をすすめてきた。これまでの基礎的研究活動を長期的視野から継続する一方で、歴史や地域の文脈から、これらの情報を解釈していくことも重要な課題となる。

人口規模や分布域の状況から、雲南省におけるモン・クメール系民族の中心はワ族ということが出来る。歴史的に、ワ族は中国国内における同系民族（プラン族、ドゥアン族）と比較し、周辺民族への親和性をもたなかった民族集団と位置づけられている。しかし、これは他民族からの評価にすぎない可能性がある。近年の調査研究により、民族内部においても文化的差異が存在することがあきらかになってきた。こうした民族内の動態を示す一例が、リテラシーの問題である。



ワ族は、モン・クメール系民族の語族名ともなったモン族やクメール族と異なり、固有の文字表記を発達させていない。しかし、外部勢力との接触にともない、19世紀以降、数種類の文字表記（インド系文字、ローマ字式転写法、漢字）を受容した。先行研究では、これらの文字表記の存在自体への指摘にとどまり、その使用実態についてはほとんど言及されていない。

こうした状況にかんがみ、2010年以降、言語記述をおこなうのと平行し、各地のリテラシー状況についての情報収集に努めてきた。その成果として、正書法として批准された政府式転写法が構造的な問題、および言語政策上の課題を抱えていることをあきらかにした。また、中国国内で否定的に扱われてきた宣教師式転写法において、表記法の改定とその普及活動という新たな動きがあること、さらに「文字をもつこと」自体に価値を見出している可能性があることも指摘した。こうした新たな知見に基づき、無文字社会であったワ族自身が選択的に文字を導入した可能性についても論じている。

こうした少数民族のリテラシーの問題は、隣接領域からの関心も高い。例えば、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の共同研究（「東アジア・東南アジア大陸における文化圏の形成と他文化圏との接触：タイ文化圏を中心として」主査：クリスチャン・ダニエルズ教授）では、申請者の問題提起を契機に、「無文字であることが山地民の生存戦略の一つ」という James C. Scott の仮説（*The Art of Not Being Governed: An Anarchist History of Upland Southeast Asia*, 2009, pp.220-237）の検証に着手した。

2. 研究の目的

本研究計画では、これまでの調査研究を継承・発展させるかたちで、次の三つを課題とする。

- (1) 滄源県におけるインド系文字の使用実態の解明
- (2) 政府式転写法の作成過程および教育・普及活動の解明
- (3) 瀾滄県における宣教師式転写法の普及活動の解明

課題(1)について、滄源県西部の仏教寺院にインド系文字資料が存在するという指摘がある。しかし、その実態は不明なままである。文字資料の存在自体を確認し、あわせて周辺集落のリテラシー状況の解明をおこなう。

課題(2)について、政府式転写法は正書法でもあり、今後の現地還元活動において重要となる表記法である。その作成過程および教育・普及活動について情報収集し、総括をおこなう。

課題(3)について、宣教師式転写法の普及活動は瀾滄県が最も盛んであるとの情報がある。宗教的象徴としての位置づけなのかという問題を含め、情報収集をおこなう。

以上の成果を統合し、少数民族のリテラシー研究へと深化させることが本研究の目指すところである。

3. 研究の方法

本研究はフィールドワークを主たる研究方法とする。調査地は、多種の文字が共存する雲南省西南部の滄源県を中心とし、比較・

対照の観点から、近接する各民族自治県、および文字表記改訂の発信地であるタイ王国北部を視野に入れる。

調査の実施に際しては、これまでと同様、雲南民族大学や雲南民族研究所、さらに現地政府系機関の協力を仰ぐこととする。収集された資料・情報は、フィールド調査以外の期間に整理・分析したのち、現地還元を視野に入れたかたちで公開していく。

4. 研究成果

2年間の活動期間中、10日程度のフィールドワークを3回(2015年2月・8月、2016年3月)実施し、前述の設定課題に対応するかたちで次の3点に関わる調査研究をおこなった。

- (1) 滄源県西部(班洪・班老地区)におけるインド系文字の使用実態の解明
- (2) 昆明市および滄源県における政府式転写法の作成過程、ならびに教育・普及状況の解明
- (3) 滄源県および北タイにおける宣教師式転写法の資料収集と普及活動の解明

以上の調査研究活動による成果は、以下の6点として公開している。

- (1) 滄源ワ族のリテラシーの概括:
ワ族の中心的居住地域である滄源県における文字表記の使用状況とテキストの現状について、フィールド調査に基づく概括的報告をおこなった。【学会発表】
- (2) インド系文字の実態報告:
滄源県西部に分布する未解明のインド系文字の実態、および周辺集落における言語状況とリテラシー状況について、調査報告をした。【雑誌論文】
- (3) 研究者と話者、それぞれにとっての表記のあり方についての検討:
政府式転写法の作成経緯や試行過程を踏まえ、研究者と話者それぞれが求める表記法とは何かについて検証報告をおこなった。【学会発表】
- (4) 無文字社会における他者記録の利用:
長らく無文字の状態であったワ族社会において、他民族による記録は過去を知るための貴重な資料となる。政府式転写法創出前後に出版された『社会歴史調査報告』を題材に、ワ語の漢字音表記による記述を検証報告した。【学会発表】
- (5) 碑文テキストのテキスト化:
班洪・班老地区には、1934年の抗英戦争に関する碑文が残されている。政府式転写法と漢字からなる本碑文について、実見および言語学的分析に基づき、テキスト化をおこなった。【雑誌論文】
- (6) 中国モン・クメール系言語研究の現状と課題:
『言語学大辞典』以降のオーストロアジア語族の研究状況を更新する目的で、中国モン・クメール系民族の研究現状と現

在の課題について情報提供をおこなった。【学会発表】

一連の調査研究成果について、将来的には現地へと還元されるべきと考える。現地研究者との意思疎通を深め、教材作成などの共同作業をおこなっていくことに引き続き努めていく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

山田敦土(2016)「滄源ワ族自治県の碑文テキスト(2)」『北海道民族学』12号、pp.41-49。(査読有)

山田敦土(2015)

「班洪ワ族の言語と文字」『饗餐』23号、pp.102-112。(査読無)

山田敦土(2015)

「【書評】叢書『知られざるアジアの言語文化』1-8号」『北海道民族学』11号、pp.100-103。(査読無)

山田敦土(2015)

「滄源ワ族自治県の碑文テキスト」『北海道民族学』11号、pp.75-83。(査読有)

〔学会発表〕(計5件)

MINEGISHI Makoto, OSADA Toshiki, BADENOCH Nathan, SHIMIZU Masaaki, YAMADA Atsushi & ITO Yuma(2015)"A Survey of Recent Austroasiatic Studies"「アジア地理言語学研究」平成27年度第1回研究会、東京外国語大学、10月3-4日

山田敦土(2015)「滄源ワ族自治県の文字使用状況：無文字から多文字併存へ」社会言語科学会第36回大会、京都教育大学、9月6日

山田敦土(2015)「ワ族におけるテキストとリテラシー」共同研究課題「中国雲南におけるテキスト研究の新展開」第1回例会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、5月23日

山田敦土(2015)「無文字社会における他者の記録：中国雲南省ワ族の事例」北方の言語と文化にかんする国際シンポジウム、北海道大学、1月24日

山田敦土(2014)「研究者にとっての表記と話者にとっての表記：中国雲南省ワ族のリテラシー調査から」北海道民族学会、帯広百年記念館、11月15日

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田 敦士 (YAMADA, Atsushi)
日本医療大学・保健医療学部・准教授
研究者番号：20609094

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：